東京女子大学比較文化研究所公開授業
2025 年度(後期)総合教養科目・比較文化「死生学を学際的に学ぶ」 募集要項

この科目は、近年、国内外で注目されている「死生学」(Thanatology あるいは Death & Life Studies)を文学・歴史学・医学・哲学のそれぞれの専門家から学際的に学ぶためのものです。Thanatology は、直訳すると本来「死の学」となりますが、さまざまなアプローチから「死」や死生観について専門的に考えながら、最終的には私たち一人一人が「生きる意味」を考える学として理解されています。

この講義では、学内外の専門家の先生方の見地から、さまざまな時代背景・文化的思想的背景における日本人の死生観についてご紹介いただきます。また、学生たちが、キャンパス内で聴講するだけの単なる「学」ととどまることなく、できる限りリアルに自分事として「生と死」について考える機会とするためグループディスカッションの時間を設け、さらに、非常勤講師として医療現場の第一線でご活躍の現役医師もお招きし、現代の医療現場とくに終末期医療における日本における「生と死」の問題、医療倫理問題などもご紹介いただく予定です。

[日 程] 2025 年 9 月 25 日～2026 年 1 月 15 日 14:55～16:25 (毎週木曜 4 時限・全 15 回)

[会 場] 東京女子大学 (杉並区善福寺 2-6-1)

[対 象] 18 歳以上の男女で、半期を通して授業に出席できる方。*授業単位は認定されません。

[定 員] 15 名

[受 講 料] 1 万円 (テキスト代等は含みません。)

[申込方法] 下記の申込書にご記入の上 8 月 25 日(月)必着でご郵送ください。

宛先：〒167-8585 杉並区善福寺 2-6-1 東京女子大学比較文化研究所「公開授業」係

[結果通知] 9 月 4 日(木)までに葉書で結果を通知いたします。なお、申込多数の場合は、抽選のうえ受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

[授業予定] 授業内容は一部変更になる可能性があります。

内容(仮題)	講師
イントロダクション：死生学とは	山田有希子(コーディネーター)
日本文学にみられる日本人の死生観	原田敦史(3回)
日本陸軍研究からみる日本人の死生観について	大江洋代(3回)
終末期医療におけるスピリチュアル・ペインと死生学	山田有希子(3回)
人生の最終段階のケア：ACP を含めた高齢者医療	矢吹拓(3回)
まとめとディスカッション	山田有希子(2回)

----- 切り取り -----

2025 年度比較文化研究所公開授業「死生学を学際的に学ぶ」受講申込書

ふり がな 氏 名		年齢		性別	男・女
住 所	〒				
電話番号(携帯等)		E-mail			
受 講 の 動 機					
本研究所公開授業受講歴	年度受講・受講歴なし				

注記：ご記入いただいた個人情報は、授業運営の目的のみに使用させていただきます。